科目名	視覚機能病態学特論	分野・必選別・単位数	専門科目	選択	2単位

担当教員	◎教授　小林克彦　　教授（特）　小林義治						
課程	博士後期	配当年次	1～2年	配当学期	通年	授業方法	講義

授業の概要	視覚機能の病態として眼科領域病変の機序について考察する。
授業の到達目標	①光干渉断層計、写真撮影、単色光眼底撮影、自発蛍光撮影、フルオレセイン蛍光眼底造影、インドシアニングリーン蛍光眼底造影などの検査について、各種病態への応用力を高め、説明できる。 ②画像データの読影をふまえ、テキストのほか各種のレポート文献を参照し、説明できる。 ・網膜・ぶどう膜・視神経の眼底画像を解析し研究を進める。 ・眼球および外眼部の機能検査と病態の記録を中心に学習する。 ・環境と視覚機能との関係を考究する。

授業計画 回数	担当者	行動目標
1	小林　克彦　　教　授 小林　義治　　教授（特）	1．前眼部画像を含む各種光学機器によるデータの解析と各疾患への応用を学ぶ。 2．後眼部病変の画像所見を考察することができる。 3．網膜変性疾患：網膜剥離を含む硝子体－網膜病変、網膜色素変性および類縁疾患、遺伝性疾患、薬剤中毒性疾患を説明することができる。 4．網膜血管病変：糖尿病網膜症、網膜動静脈閉塞、その他の血管障害や循環障害を説明することができる。 5．脈絡膜血管病変：加齢黄斑変性、中心性漿液性脈絡網膜症、各種新生管黄斑症などを説明することができる。 6．炎症性病変：ぶどう膜炎、感染性病変を説明することができる。 7．視神経病変：緑内障性視神経症を説明することができる。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間		
	【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。 次回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。

教科書	SJ Ryan著 「RETINA」 ELSEVIER社 L.A.Levin, S.F.E.Nilsson, J.Ver Hoeve, et al.(eds.)「Adler's Physiology of the Eye」 MOSBY社
参考書	随時　指示する。
成績評価の方法および基準	授業内課題を含む口頭試問60％、レポート40％ 欠席・遅刻・早退は減点の対象となる。
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。 （ディプロマ・ポリシー3に相当する）